

回 抜 討 権 八 (七 卷)

帝キネ小阪映畫

第百七十八號

紹 介

譚りは別に新味あるものではない、歌舞伎劇で知られて居る権八や長兵衛の譚りと大差ないけれど只この映畫の狙ひ所は権八の抜討を新しい立廻りで見せて薪機軸を出そうと云ふにあるのである。脚色者も監督者も技師もその効果を現はさうと努めて居る。鈴ヶ森もラストの捕物もその苦心は空しからず可成り目新しい興味を以つて面白く見られた。亂闘に時々食傷氣味の観客にも充分満足な與へ大受けである。市川百々之助氏の長兵衛は瀟灑たる元氣さが快い尾上紋十郎氏の長兵衛は少し貫目が足りないが役どころである。山下澄子嬢の小紫は初めての入役、若さに於ては権八と好い對照だが小紫にはまだ荷が重い、目新しい亂闘劇として必ず受ける映畫である。

(拾壹月廿日、大阪芦邊劇場封切)

山本 綠葉